

東日本大震災オンライン公開講座

東日本大震災から12年

—2011年その時、どう動き、2023年、今、考えること—

日時:2023年3月5日(日)14:00~16:30

参加費
無料!

第1部(講演)14:00~15:00

演題「津波被災地釜石が今なお問いかけること—釜石の奇跡と悲劇—」



講師:千田 光久

プロフィール:星槎大学共生科学部・星槎大学大学院教育学研究科教授

専門分野/ 特別支援教育、交流及び共同学習、障害児保育、特別支援学校危機管理

岩手県の釜石市教育委員会は東日本大震災発生以前から防災教育に力を注ぎ、多くの児童生徒が大津波から難を逃れて「釜石の奇跡」とも呼ばれている。しかし、その一方で住民の死亡率が10.2%、すなわち10人に1人の方が犠牲になった鵜住居地区がある。この地区で354人が死亡・行方不明という多くの犠牲があり「釜石の悲劇」とも呼ばれている。今なお、私たちに問いかけている釜石の奇跡と悲劇を参加者の皆さんと再考し、尊い命を守りたい。

第2部(シンポジウム)15:10~16:30

「2011年その時、どう動き、2023年、今、考えること」

【シンポジストの経歴等】

(1)村上嘉郎(教育)

・現在、岩手県立久慈拓陽支援学校 校長

・2011年震災当時、大船渡市に在住。避難所の全般的な運営に尽力するとともに、特別支援学校の教員として障害のある子どもや家族支援にも尽力。現在の勤務校である久慈拓陽支援学校においては防災教育に力を入れた学校運営をしている。



(2)高橋律子(保健)

・現在、岩手県奥州市健康こども部こども家庭課 婦人相談員

・2011年東日本大震災発生直後に奥州市から津波被災地である大船渡市に派遣され、保健師として被災者支援に尽力。被災地では、仮設住宅に避難している住民などのために「生活不活発病予防と孤立防止」や「健康相談」に尽力した。



(3)内出幸美(福祉)

・現在、社会福祉法人典人会理事長(大船渡市)

・大船渡市に在住し、2011年東日本大震災発生では、認知症デイサービス施設を運営していたが、迅速な避難により犠牲者はなかった。大震災を契機に災害派遣福祉チーム(DWAT=Disaster Welfare Assistance Team)の創設と総世代の居場所づくり尽力。



開催方法:オンライン(Webアプリ・Zoomで実施)

申込期間:2023年2月6日(月)~2023年3月3日(金)

対象:大学生・一般などNPOに関心のある方々 など

問合せ先:星槎大学九州分局(福岡県福岡市中央区白金1-6-2)

TEL:092-401-0277 E-mail:seisakyusyu@seisa.ac.jp

申込・二次元コード



申込URL: <https://forms.gle/Wb5iYdD7HCGatwgN7>



Live! 生中継



スマホで
参加 OK



双方向



途中参加 /
退室 OK



全国の仲間と
繋がる